



# ほうさ 第32号

1987年10月

名古屋市蓬左文庫  
Nagoyashi Hōsabunko

屢示風より

## 家康の集めた書物

—駿河御讓本展—

10.3(土)~12.7(日)  
(11.4(水)・5(木)は展示替休室)

蓬左文庫の前身である尾張藩の御文庫の基礎を築いたのは、初代藩主義直の書物収集であり、さらにその書物収集の基礎となったのが、義直が父家康の遺品として譲り受けた377件2839冊におよぶ駿河御讓本である。

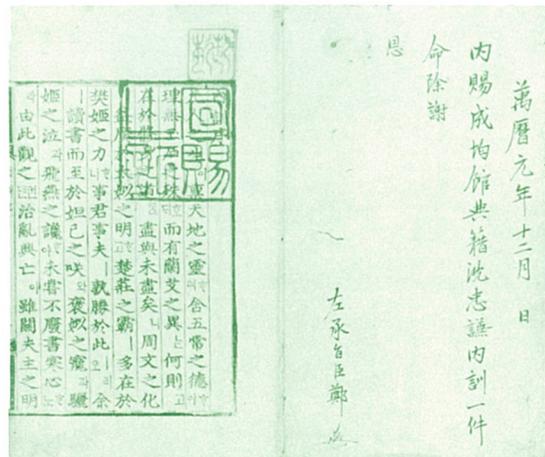
徳川家康は、少年時代から学問に親しみ、江戸幕府の創設に際しても學術の振興に力を入れた。文禄2年(1593)、近世儒学の祖といわれる藤原惺窩を招いて講議をさせた頃から、伏見の家康のもとには、足利学校長三要素元信、南禅寺の金地院崇伝などをはじめ、当代の優れた学者、学僧が登用され、右筆(秘書官)の役割などを果たすとともに、書物の収集や出版においても、彼等の力に負うところが大きかった。

金沢文庫は、鎌倉時代の中頃、北条実時が武蔵国六浦(横浜市金沢区)に創設した文庫で、蔵書に名品の多いことで知られていたが、室町時代以降その蔵書の散逸が激しかった。家康は、この散逸した金沢文庫本を採訪し、慶長7年(1602)、江戸城内に設けた富士見亭文庫に収集した金沢文庫本を納めたのである。

一方、秀吉の命じた朝鮮出兵は、世界の最高水準にあった金属活字印刷物を中心に、朝鮮本と呼ばれる李朝の優れた出版物を数多くもたらした。これは、朝鮮に渡った武将が持ち帰ったもので、家康のもとにも多くの朝鮮本が集められることとなった。また、活字印刷による出版物の伝来は、我国の印刷文化に多大な影響を及ぼし、朝廷や寺院によって、活字印刷による出版がさかんに行われた。伏見にあった家康も、慶長11~14年にかけて、「孔子家語」「周易」など7種の活字版を刊行し、これが伏見版と呼ばれた。

慶長12年、駿府(静岡市)へ隠居するに際し家康は、江戸の富士見亭文庫には一部を残し、金沢文庫本、朝鮮本などの多くを駿府へ移して、新しく駿河文庫を創設した。駿府における家康の書物収集は、それまで以上に活発化し、中国貿易によってもたらされる明清の新刊本に加え、各方面からの献本も増加し、この中には、秀吉に滅ぼされた秀次が側近等に与えた金沢文庫本なども含まれていた。さらに慶長19年からは、皇室、公家、寺院の所蔵する古い記録の写本を作成し、また、同年、金属活字を鋳造させ、これを使って「大蔵一覽」「群書治要」などの駿河版と呼ばれる活字版を刊行している。

駿河文庫の蔵書数は約1,000部10,000冊と推定され、約10種におよぶ金沢文庫本の名品を筆頭に、その八割を漢籍(中国、朝鮮の書物)が占め、さらに漢籍の大半が朝鮮本(内容は中国の古典が中心)であった。これは当時の中国中心の文化的状況や出版事情を物語るとともに、同文庫の特徴ともなっていた。



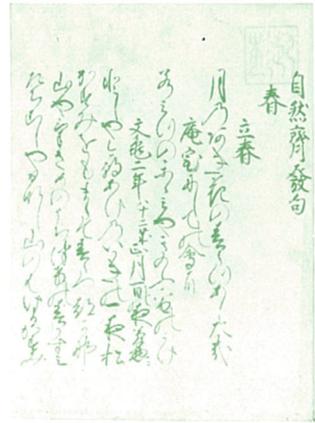
内訓 「御本」乙印と「宣賜之記」印

元和2年(1616)、家康の死去により、その遺言に従って、諸道具類と同様に書物もまた尾張、紀州、水戸の御三家に分譲され、これが後世駿河御護本と呼ばれた。駿河文庫の管理を任せられ、またこの分譲を担当することとなった林羅山は、約50件を江戸の文庫に送った後、尾張、紀州、水戸の分を5:5:3に分配した。尾張は、当主の義直が最年長で、義直が羅山と親しかったことなどから、もつとも名品が数多く贈られたと言われる。事実、金沢文庫本が4件ともつとも多く、紀州家などは金沢文庫本が1件も伝わらなかったと言われる事がらも、尾州家の御護本が、質量ともに他家より優れたものであったことがうかがわれる。

義直は、16才の大坂夏の陣の帰途、京都において書物を購入したと伝えられるほど書物好きの人物であった。家康の優れた蔵書を贈られたことにより、彼の書物収集活動は、さらに活発となり、多くの中国の新刊本の購入や、学者、家臣などからの献本によって、義直一代の蔵書数は約19,000冊にもおよび、当時の大名家の蔵書数としては最大のものであった。また、分譲にならなかった駿河文庫の書物についても他家の蔵書から写本を作成し、購入に際しても、駿河文庫の蔵書が意識されたことが伺われ、義直の書物収集は、駿河文庫を手本に行われたものと考えられる。ゆえに、駿河御護本と義直の蔵書を合せることによって、家康の駿河文庫の蔵書の概要を想像することもできるのである。

紀州、水戸両家の駿河御護本が、同家の他の蔵書と区別されることなく後世に伝えられたのに対し、尾張藩では、歴代藩主ごとに書物を整理して伝えたこともあり、駿河御護本は、常に歴代藩主の蔵書の筆頭に置かれ、駿河文庫から譲り受けた時のまま明確に区別されて伝えられた。残念ながら明治維新の際、蔵書の払い下げ処分が行われ、駿河御護本についてもその三分の一が処分されたが、257件1,871冊はそのまま残り、現在の蓬左文庫に所蔵されている。ちなみに、水戸家の御護本は、戦前の調査で約50件が確認されているが、戦災によって水戸家の蔵書の大半が消失したため、確認はさらに困難となっている。紀州家については、明治維新の際にほとんどが売却されたと伝えられ、現在では手がかりはないに等しい。このように、家康の収集した善本の宝庫、駿河文庫の蔵書を確実に現在に伝えているのは、御三家分では、蓬左文庫に残る尾州家の駿河御護本が唯一なのである。なお、江戸の分については、現在宮内庁書陵部と内閣文庫に分散して所蔵されている。

蓬左文庫では、明治維新の際処分された駿河御護本を収集することを心がけ、大正期に「大学章句大全」「大学衍義」の寄贈をうけ、昭和48年「源平盛衰記」を購入した。さらに近年「春秋胡伝」「象山先生全集」についても収集することができ、今回の展示において初公開することとなった。



「自然齋發句」「御本」(乙)印

【参考文献】

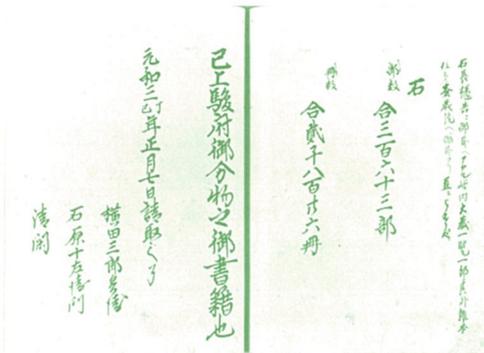
川瀬一馬「駿河御護本の研究」(『書誌学』通巻16号)1934「わが国における書籍蒐蔵の歴史(前篇)」(『かがみ』特別号)1987



「御本」(乙)

尾張藩初代藩主義直の蔵書印。駿河御護本を贈られた義直が、自分の蔵書と合せて使用した。当文庫に残っている駿河御護本でこの印が捺されていないのは、数件にすぎず、また元和年間の義直の蔵書の多くにこの印記がある。江戸時代には、家康の蔵書印として解釈されたこともあった。

大きさ形をよくにた2種(甲・乙)とひとまわり小さい1種(丙)の3種の印がある。(蓬左第1・24号参照)この内、今回展示する甲印のみが徳川美術館に現存しており、獅子の形をした鈕のついた陶製の印である。第24号で甲印については既に紹介したので、今回は、使用例のやや多い乙印を挙げた。



▲「御書籍目録」(元和・寛永)

右  
部数 合三百六十三冊  
冊数 合式千八百廿六冊

己上駿府御分物之御書籍也

元和三四年正月七日請取之了

横田三郎兵衛  
(御寄合)五百石  
石原十左衛門  
(右筆)

清閑

(ただし、表数は二六六部一八一四冊、さらに一一部一三冊が増したため、七七部一六七七冊となった。)

「家康の集めた書物—駿河御讓本展—」出品目録

〈国書〉

- 1. 日本書紀神代卷  
舍人親王等  
慶長14年写(卜部兼見奥書・ヲコト点付) 2巻2冊
- 2. 日本書紀纂疏  
一条兼良 室町時代写 6巻6冊
- 3. 公事根源  
一条兼良 室町時代写 2冊
- 4. 貞永式目抄  
清原宣賢 慶長年間写 2冊
- 5. 武家昇晋年譜 室町時代写 1冊
- 6. 遠近駿見抄  
福田教周 慶長14・15年写(自筆) 2冊
- 7. 保元物語 慶長年間写(片カナ交じり) 2巻2冊
- 8. 平治物語 慶長年間写(片カナ交じり) 3巻3冊
- 9. 保元物語 慶長年間写(平かな交じり) 2巻2冊
- 10. 平治物語 慶長年間写(平かな交じり) 3巻3冊
- 11. 源平盛衰記 慶長年間刊(古活字版) 48巻24冊
- 12. 方丈記  
鴨長明 慶長年間刊(古活字版・嵯峨本) 1冊
- 13. 沙石集  
積無住著 積門智校  
慶長10年刊(古活字版・要法寺版) 10巻(巻1・2欠)8冊
- 14. 古今和歌集聞書  
積宗祇 室町時代写 2冊
- 15. 自然齋発句 積宗祇 室町末期写 1冊
- 16. 狂雲集  
積宗純(一休) 文亀3年写 1冊
- 17. 翰林胡芦集  
積周麟 室町時代写 2冊
- 18. 東福寺湖月和尚三体詩之抄  
積信鏡(藁庵) 室町時代写 3冊
- 19. 聴松和尚三体詩之抄  
積盡彦(村庵) 室町時代写 2冊
- 20. 江湖風月集抄 室町時代写(片カナ交じり) 2冊
- 21. 中興禪林風月集抄  
(宋)孔汝霖編 文禄5年写 3巻1冊
- 22. 毛詩抄  
慶長年間写(片カナ交じり) 20巻10冊
- 23. 論語聴塵  
清原宣賢 天正13年写(清原枝賢筆)10巻5冊
- 24. 蒙求抄  
室町時代写(片カナ交じり) 3冊
- 25. 古文真宝抄  
室町時代写(片カナ交じり) 10巻20冊
- 26. 聚分韻略  
積師鍊 室町時代刊 2巻1冊

〈漢籍〉

— 經部 —

- 27. 周易註  
(晋)韓康伯注 永徳4年写(ヲコト点付) 2冊
- 28. 周易正義  
(唐)孔穎達 室町時代写(附訓) 1冊
- 29. 易学啓蒙通釈  
(宋)胡方平撰 室町時代写 3巻3冊
- 30. 大易断例下筮元龜[巻中・下]  
天正6年写(附図) 存2巻2冊
- 31. 毛詩  
(漢)鄭玄注  
室町中期写(天文4年識語・ヲコト点付) 20巻7冊
- 32. 毛詩註疏  
(漢)鄭玄注(唐)孔穎達疏  
室町末期写 20巻9冊

- 33. 尚書  
慶長年間刊(古活字版・附訓点) 13巻1冊
- 34. 尚書  
(漢)孔安国伝 江戸初期刊(古活字版) 13巻2冊
- 35. 春秋集伝大全  
(明)胡広等奉勅撰 明初刊 37巻10冊
- 36. 春秋公羊疏  
室町末期写(巻11・12に金沢文庫の  
四字墨書あり) 単疏本 30巻6冊
- 37. 春秋胡伝  
(明)杜預 万暦33年積善堂刊 30巻5冊
- 38. 古今韻会举要  
(元)熊忠 慶長年間刊(古活字版) 30巻15冊
- 39. 韻府群玉  
(元)陰時夫編 陰中夫注  
室町時代刊(覆元統甲戌版・五山版) 20巻10冊

— 史部 —

- 40. 資治通鑑綱目 訓義  
(朝鮮)李季甸等  
(朝鮮)正統3年頃刊(古活字版) 60巻150冊
  - 41. 資治通鑑節要続編  
(明)劉刻編 長光啓訂 景泰3年刊 30巻6冊
  - 42. 十七史詳節  
(宋)呂祖謙 朝鮮刊(古活字版) 267巻(有欠)60冊
  - 43. 群書治要  
(唐)魏徵等 元和2年刊(駿河版)  
(紀州家御讓本、明治期に紀州家より尾張家へ寄贈) 50巻47冊
  - 44. 大明会典  
(明)李東陽  
朝鮮刊(古活字版・嘉靖31年宣賜本) 181巻35冊
  - 45. 通典  
(唐)杜佑  
朝鮮刊(古活字版・嘉靖39年宣賜本) 201巻75冊
  - 46. 治平要覽  
(朝鮮)鄭麟趾等  
朝鮮刊(古活字版・正徳11年宣賜本) 150巻(有欠)129冊
  - 47. 大明律  
(明)劉惟謙編(朝鮮)趙凌等解  
朝鮮刊 30巻4冊
  - 48. 国朝五礼儀  
(朝鮮)申叔舟等 朝鮮刊(古活字版・序例整版) 13巻8冊
  - 49. 古今列女伝  
(漢)劉向著(明)茅坤補 万暦15年刊(帯図本) 8巻3冊
  - 50. 東坡紀年録  
(明)傅藻 応永27年写(朱点入) 1冊
  - 51. 三国遺事  
(高麗)積一然(朝鮮)正徳7年刊 5巻2冊
  - 52. 新編方輿勝覧  
(宋)祝穆 元刊 70巻15冊
  - 53. 広皇輿考拔書 江戸初期写(林道春筆) 1冊
- 子部 —
- 54. 大学衍義  
(宋)真德秀 朝鮮刊(古活字版) 43巻13冊
  - 55. 武経総要  
(宋)曾公亮等 明刊 47巻16冊
  - 56. 海篇心鏡  
(明)蕭良有著 余応奎訂 万暦22年刊 20巻6冊
  - 57. 家礼大全 (朝鮮)嘉靖42年刊 4巻1冊

- ◎ 58. 内訓  
(朝鮮)昭惠王后  
朝鮮刊(万曆元年宣賜本・諺文入り) 3巻4冊
- ◎ 59. 楽学軌範  
(朝鮮)成俔等 朝鮮刊 9巻3冊
- 60. 呂氏春秋  
(秦)呂不韋著(明)万国欽批釈王胤麟訂  
万曆9年刊 6巻2冊
- 61. 淮南鴻烈解  
(漢)劉安著 高誘注(明)汪一鶴訂  
万曆19年刊 21巻(有欠)2冊
- 62. 小学日記故事大全  
(明)虞韶編  
(朝鮮)嘉靖45年刊(帯図本) 10巻2冊
- ◎ 63. 文林聚宝万巻星羅  
(明)徐会瀛 万曆28年刊 40巻6冊
- ◎ 64. 兩漢開國中興伝誌  
(明)黃化宇校 万曆33年刊(帯図本) 6巻3冊
- 65. 全漢志伝  
(明)熊鍾谷 万曆16年刊(帯図本) 12巻2冊
- ◎ 66. 列国志伝  
(明)余邵魚 万曆34年刊(帯図本) 8巻8冊
- ◎ 67. 三国志伝通俗演義  
(元)羅本編 万曆19年刊(帯図本) 12巻6冊
- 68. 三国志伝  
(元)羅本編 万曆33年刊(帯図本) 20巻10冊
- 69. 剪燈新話句解  
(明)瞿佑 朝鮮刊 2巻2冊
- ◎ 70. 孫武子兵法本義  
(明)鄭霧注 明刊 2巻1冊
- ◎ 71. 琴譜真伝  
(明)楊表正 明刊 6巻3冊

- 集部 -

- 72. 陳思王集  
(魏)曹植著(明)李廷相編  
朝鮮刊(古活字版) 8巻2冊
- ◎ 73. 昌黎先生聯句集  
(唐)韓愈 永和2年刊 2巻2冊
- 74. 唐柳先生集  
(唐)柳宗元著 劉禹錫編(宋)童宗説音注  
正和元年写(金沢学校書写奥書あり  
ヲコト点付) 48巻12冊
- ◎ 75. 杜工部詩  
(唐)杜甫(宋)徐居仁編 黃鶴補注  
永和2年覆元刊 25巻13冊
- ◎ 76. 讀杜詩愚得  
(明)單復  
朝鮮刊(古活字版・嘉靖28年宣賜本) 19巻15冊
- ◎ 77. 李太白詩  
(唐)李白著(元)蕭士贇補注  
朝鮮刊(古活字版) 27巻15冊
- ◎ 78. 山谷詩集註  
(宋)黃庭堅著 任淵注  
室町時代写(訓点・書入あり) 20巻20冊
- ◎ 79. 詩人玉屑  
(宋)魏慶之 室町時代写 20巻10冊
- 80. 選詩演義  
(宋)曾原一 朝鮮刊(古活字版) 2巻2冊
- 81. 朱子大全文集  
(宋)朱熹  
朝鮮刊(古活字版・嘉靖22年宣賜本) 123巻95冊
- 82. 南軒先生文集  
(宋)張栻 朝鮮刊(古活字版) 44巻13冊
- ◎ 83. 中州集  
(金)元好問  
室町時代覆元刊(五山版朱点・書入あり) 12巻6冊

- ◎ 84. 新編翰林珠玉  
(元)虞集 元刊(補刻あり) 1冊
- 85. 空同先生文集  
(明)李夢陽 嘉靖年間刊(慎独齋版) 57巻10冊
- ◎ 86. 象山先生全集  
(明)陸象山 嘉靖年間刊  
明治弘本 36巻10冊
- 87. 御製文集  
(明)太祖 朝鮮刊  
(古活字版・嘉靖25年宣賜本) 20巻6冊
- ◎ 88. 陶隱先生詩集  
(高麗)李崇仁著(朝鮮)下季良編  
朝鮮永樂年間刊 5巻2冊
- 89. 古論選 朝鮮刊(古活字版・木活) 1冊

< 仏典 >

- 90. 高僧法顯伝 元和2年刊(古活字版・宗存版) 1冊
- 91. 大唐西域求法高僧伝  
(唐)義淨  
慶長19年刊(古活字版・宗存版) 2巻2冊
- ◎ 92. 大川語録  
(宋)普濟著 元愷編  
室町時代覆宋刊(五山版・朱点書入あり) 1冊
- ◎ 93. 聖一國師飯名法語  
釈弁門 室町時代写 1冊
- ◎ 94. 東福開山聖一國師年譜  
釈門心 室町時代写 1冊
- 95. 大藏目錄  
慶長18年刊(古活字版・宗存版) 3巻3帖
- 96. 大藏一覽集  
(明)陳実  
慶長20年刊(古活字版・駿河版) 11巻11冊
- 97. 無量寿経鈔  
釈了慧 慶長19年刊(古活字版) 7巻7冊
- 98. 仏制比丘六物図抄  
(宋)元照 室町時代写 1冊
- ◎ 99. 横川拈香 天正14年写 1冊
- ◎ 100. 勝定院殿纂集諸仏事 室町時代写 1冊
- ◎ 101. 三教指帰  
釈空海 室町時代写 3巻1冊
- 102. 鷲林拾葉抄 [法華抄]  
釈亮尊 永正年間写 10巻10冊
- 103. 藏乘法数  
(元)可遂 応永17年刊 1冊

< 義直蔵書 >

- 104. 続日本紀  
菅野真道等撰 江戸初期写 40巻13冊
- 105. 侍中群要  
橘広相 寛永元年写 10巻10冊
- ◎ 106. 経国集  
滋野貞主等編 江戸初期写 6冊
- ◎ 107. 公卿補任  
江戸初期写(正保4年補写) 56冊

< 目録 >

- 108. 御書籍目録(元和・寛永) 江戸初期写 2冊
- 109. 御文庫書籍目録(寛政) 江戸時代写 12冊
- 110. 獅子鈕御蔵書印「御本」  
徳川義直蔵書印(陶印)(徳川美術館蔵) 1個

○印「御本」(甲)印記 ◎印「御本」(乙)印記 ●印「尾陽文庫」印記

# 蓬左アルバム

## 1. 昭和13年頃

初代尾張藩主徳川義直によって名古屋城二之丸内に創設された「御文庫」に、徳川義親氏が「<sup>ほうさ</sup>蓬左文庫」と命名してから、七十五年余の年月が過ぎた。そのうち、現在までの約五十年間を、文庫と共に過ごした者として、文庫に関わるさまざまな出来事を、ここに記しておくことも、何らかの意味があるかもしれない。以下、思いつくままに、蓬左文庫や、文庫に関わった人々の事などについて筆を進めてゆきたいと思う。

私が蓬左文庫に就職したのは、昭和十三年七月。当時は大学出と言えども就職するのがなかなか難しく、また健康上の理由もありまして、大学を卒業して二～三年くらいはぶらぶらしていました。たまたま、義兄が東海銀行に勤めていまして、私の就職について骨を折ってくれることになり、その縁で徳川黎明会<sup>(注1)</sup>に入ることになったのです。それと言いますのも、黎明会の専務理事で、当時黎明会の財務関係を引き受けておられた鈴木信吉氏が、以前東海銀行に勤めておられたことがあって義兄と親しく、また、徳川家が東海銀行の大株主だったというような縁があったからなのです。鈴木理事のお口添えで、黎明会所属の蓬左文庫に就職することが内々には決まったのですが、一応試験を受ける必要があるということで、目白の黎明会事務所へおもむくことになったのです。

当時の徳川家の敷地はおよそ一万坪ほどもあり、その中に黎明会事務所、徳川林政史研究所<sup>(注2)</sup>、徳川生物学研究所、蓬左文庫および徳川家の本邸が置かれていました。この徳川家本邸というのが、木造三階建のいわゆるハーフ・チンパー式の建物で、なかなか瀟洒なものでした。その後八ヶ岳の方へ移転したとか聞いていますが、黎明会事務所は、蓬左文庫や林政史研究所とは五十mくらい離れたこの本邸に隣接して建てられていました。

さて、この目白の黎明会事務所が私が鈴木理事と面接試験を行っている最中に入って来られたのが、林政史研究所の研究員であった所三男先生でした。所先生は当時三十七～八才、とても背が高くたくましい体格をしておられ、しかも、暑い日だったこともあって、白いランニングシャツ一枚に軽い夏ズボンをはき、手に書類を持って、私と鈴木理事のいる部屋へぬーっと入って来られたのです。どうやら書類を届けに事務所にみえたところ、面接中との話を聞いて、のぞかれたようでした。私は所先生が研究員でいらっしやることは存じていましたが、もう少し学者肌の方かと思っていましたら、話の最中ものしかかるような感じで、がっちりしたスポーツマンタイプでしたので、非常に意外でした。それから現在に至るまで、所先生には長くご指導をいただいております。その時の試験は、特に歴史関係のものということもなく、ごく一般的な常識問題で、すぐに雑談になるといった具合で、まもなく黎明会より「職務名 書記 蓬左文庫勤務を命ず」という辞令をもらいました。これが私と文庫とを結ぶ出発点でした。

織茂三郎 談（元蓬左文庫調査研究員）

注1）財団法人尾張徳川黎明会。昭和七年徳川義親侯によって設立され、蓬左文庫、徳川生物学研究所、および名古屋の徳川美術館の運営にあたった。

注2）昭和十年刊「蓬左文庫要覧」によれば、大正十四年に徳川邸内に林政史研究室が設けられたが、昭和七年の黎明会設立に当って、文庫附設の歴史研究室となった。ここでは、混乱を避けるため、林政史研究所と呼ぶ。



蓬左文庫全景（昭和10年頃）

蓬左文庫の建物は、地上二階、地下一階のレンガ造で、内に納めてある古書とは対照的に、とてもモダンな建物でした。外壁に蔦がまつわりついており、六月になると若葉が芽をふいてとても風情があり、また、周囲には銀杏の木も植えられていました。

★次回展示のお知らせ、「近世上流婦人の教養～尾張徳川家婦人達の蔵書」63年1月16日(日)～3月20日(日)  
(2月18日(木)・19日(金)は展示替休室)

# 出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S. 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S. 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S. 51年刊)	4,000円	同 第8巻(S. 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一~三集	各 1,500円	同 第19巻(同)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S. 53年刊)	2,000円	同 第17巻(S. 58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S. 47年刊)	700円	同 第4巻(S. 59年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S. 44年刊)	400円	同 第9巻(S. 60年刊)	3,000円
善本解題図録第一~三集(S. 55年再版)	各 300円	同 第11巻(同)	3,000円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S. 52年刊)	200円	同 第18巻(1)(同)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S. 53年刊)	300円	同 第18巻(2)(同)	3,000円
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1~No.15(S. 55~61年刊)	各 1,800円	同 第15巻(S. 61年刊)	3,000円
御本印型書鎮(S. 58年製)	1,000円	同 第14巻	
堀田文庫蔵書目録(S. 58年刊)	500円	一金明録(同)	3,000円
蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円	同 第10巻	
蓬左文庫図録(同)	1,500円	一松濤棹筆(抄) 下(同)	3,000円
蟹江慶次郎旧蔵書目録(S. 62年刊)	500円	同 第2巻	
		一尾藩世記 上(近刊)	3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

## ▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

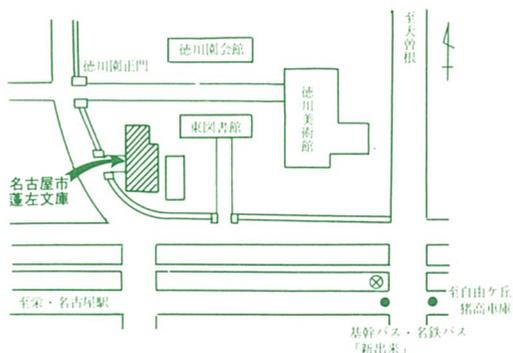
- ▷開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)  
 祝日 (日曜に重なる場合は日曜閉館、月・火休館)  
 月曜 " 月・火休館  
 年末年始(12月28日~1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません  
 (閲覧料) 普通図書 無料  
 重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示  
 (特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

### 名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(<名古屋駅から> 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行  
 名鉄バス「本地ヶ原方面」行  
 (<栄から> 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」  
 「猪高車庫」行  
 「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第32号 ☆昭和62年10月3日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)  
 ☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)